

JETRO茨城

6カ国の食品バイヤー招致

県産品売り込み



光センサーによるメロンの選果を視察する食品バイヤーら＝鉾田市造谷

県産品の輸出促進へ向け、日本貿易振興機構茨城貿易情報センター(ジエトロ茨城)は22日、欧州や東南アジアなど6カ国の食品バイヤーを県内に招き、全国1位の産出額を誇るメロンや伝統製法のしょうゆなどをPRした。バイヤーにメロンの選果場やしょうゆ製造工程などを直接見てもらうことで、県産品の品質の高さや安全性をアピールするのが狙い。視察には県やJAの担当者、加工業者も同行し、売り込みに懸命だった。

食品バイヤーの県内招聘はジエトロが進める食品などの海外展開支援の一環で、県内視察は6月のジエトロ茨城開所後初めて。来県したのは、ドイツ「アグリフードE X P O 東京」に参加す

るため来日していた。一行は、鉾田市造谷のJA茨城旭村青果物管理センターを訪れ、光センサーによるメロ

ンの選果を見学した後、同市内のハウスで旬のアールスメロンの収穫を体験。創業32年の柴沼醤油醸造(土浦市虫掛)では、木桶で仕込む昔ながらの製法を視察した。このほか、昼食会場のいこいの村酒沼(鉾田市箕輪)では、メロンや加工食品の試食会を開き、鬼沢保平市長は「鉾田市では安全安心な農産物や農業加

工品を生産している」とアピールした。タイで百貨店などを運営する企業のスパナ・ペッターズさんは「メロンの味は評判以上。品質管理が徹底されているのが分かった」と感想を話した。香港でスーパーなどに日本食材を卸す企業のエイミー・カクさんは「日本産の農産物輸入が再開されていないため、メロンの取り扱

いは難しいが、メロンなどの加工品には興味がある」と話した。ジエトロ茨城は今後もバイヤー招聘を行う予定。西川壮太郎所長は「海外であり知られていない茨城の食品の幅広さを多くのバイヤーに実感してもらいたい」と話した。(松下倫)

